

# 序 文

2013年度の聖路加看護大学は、2012年度に行った将来構想委員会の成果（全33項目）を基に、各事業を2013年度（13項目実施）や2014年度の事業計画に組み込んで予算化し（10項目）、実現化を進めた。また、各種の補助金獲得状況を把握し、「私立大学等改革総合支援事業」のタイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質の向上」とタイプ2「特色を発揮し、地域の発展を重層的に支える大学づくり」の項目にもとづいて体制を整備した。特に、タイプ2の重点項目とされる「大学所在地の都道府県又は市区町村との包括連携協定の締結」を得るため、これまでの実績をもとに中央区に働きかけを行った。

教育活動では、科目ナンバリング、GPAが始まり、学生の成績評価を行うとともに、ポートフォリオ(manaba course2)の導入に向けた研修会を開催した。2014年度、2015年度の公衆衛生看護学実習に向けた実習施設の確保と学生のふり分けを行った。大学院修士課程に、看護教育学上級実践コースの開設を決め、聖路加国際病院看護師を対象とした特別入試を行った。このコースは、文部科学省による「看護系大学教員養成機能強化事業」に採択された「フューチャー・ナースファカルティ（FNF）育成プログラム」によって強化された。また、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の採択によって、アクティブ・ラーニングの設備・システムの検討が精力的に行われた。

看護実践開発研究センターは、創立10周年を迎え、大学創立記念行事において記念講演会を開催した。研究支援室は、文部科学省科学研究費助成事業62件、厚生労働科学研究費補助金14件の研究支援を行った。テルモ株式会社の支援による聖路加市民アカデミーは最終年となった。

一方、学校法人聖路加看護学園と一般財団法人聖路加国際メディカルセンターとの法人一体化の準備が着々と進められた。法人一体化推進会議が毎週開催され、17のワーキンググループ（WG）で検討された内容について意思決定を行った。WGは、文書規程、経営企画、人事、財務経理、情報システム、総務、物品管理、施設管理、教育研修、研究管理、図書館、国際、臨床学術センター（CCA）、広報、看護、健康管理、アーカイブであった。

事前相談書による文部科学省との話し合いが続けられた結果、2013年12月18日に大学設置・学校法人審議会大学設置分科会運営委員会にて大学名称の変更が承認され、12月19日に寄附行為と学則変更を提出し、2月12日に文部科学大臣により認可された。その後、聖路加国際メディカルセンター理事会・評議員会（2月24日）、聖路加看護学園理事会・評議員会（2月27日）にて事業の譲渡に関する契約の承認を得た。この間、クリスマス祝会にて学生への説明を行い、保護者・受験生等へ大学名変更に関する説明文書の郵送を行った他、12月27日の朝日新聞に「教育・研究・実践の融合—最善を尽くせ、しかも一流であれ—」と題して、大学名変更に関する広告を掲載した。

最後に、訃報を記さなければならない。本学名誉教授であり、元理事であった高橋シュン先生が、2013年7月17日に逝去され、10月6日に偲ぶ会を開催した。さらに、2013年12月21日に特任教授として統計学の指導に情熱をかたむけて下さった柳井晴夫先生が逝去された。心より感謝を捧げたい。

「聖路加看護大学」としての年報はこれで最終となる。

2014年3月31日

聖路加看護大学学長 井部俊子